

平成29年度第1回京丹波町総合教育会議 議事録

- 1 開催日時 平成29年5月16日(火)
開会：午前9時30分 閉会：午前11時36分
- 2 開催場所 中央公民館 大会議室(3階)
- 3 構成員出席者 7名
寺尾豊爾町長 松本和久教育長 櫻井博規教育長職務代理者 藤田道子委員
上田明成委員 竹内裕子委員 竹吉美公委員
- 4 事務局出席者 9名
中尾総務課長 西村教育次長 山根社会教育課長 徳島学校教育課課長補佐
上林学校教育課課長補佐 木下社会教育課課長補佐
原澤総務課課長補佐 小林総務課係長 淵上総務課主事
- 5 傍聴者 なし
- 6 会議の概要

(開会：午前9時30分)

○開会

寺尾町長挨拶

松本教育長挨拶

○協議事項

(1) 平成29年度京丹波町事業について

- ・平成29年度京丹波町当初予算編成概要について、事務局より説明。

【事務局】平成29年度京丹波町事業について説明いたしましたが、説明しました内容についてご質問・ご意見等がございましたら、よろしくお願ひします。

【構成員】質問・意見なし

(2) 京丹波町の教育について(意見交換)

- ・平成29年度京丹波町教育推進プランについて、教育長より説明。
- ・平成29年度教育委員会主要事業(学校教育関係)について徳島補佐より説明。

【事務局】平成29年度京丹波町教育推進プラン及び教育委員会主要事業（学校教育関係）について説明がありましたが、内容についてご質問・ご意見等がございましたら、よろしくをお願いします。

【構成員】質問・意見なし

【事務局】それでは、これより意見交換を行いたいと思います。ただいまの説明内容あるいはそれ以外の内容でも結構ですので、意見等ございましたらお願いします。

【教育長】

今年度において、国の指導要領に対応した全面的な情報機器の整備は、先進的な取り組みである。子供にとっては学び方、教師にとっては指導が、これまでに比べて一新するような、画期的な学校教育の条件整備を行うこととなる。これまでの情報機器を使った教育は、パソコン教室で行っていたが、今後はそれぞれの教室において無線LAN、Wi-Fi環境が整備され、各教室で色々なことを調べたり、児童・生徒間あるいは児童・生徒と教師との間で情報のやり取りをしたりする「最新型の学び」が出来る。京丹波町メソッドで示している「共同的な学び」を保障する環境条件整備になる。整備後は、この環境条件をしっかりと使い切るということを大事にしたい。教育委員の皆さんにも、一度学校に来ていただいて、使っている様子をぜひとも見て頂きたい。

【委員】

町の予算や学校教育に関することを聞き、子育て支援や通学バスの無償化等の子供たちに返っていく部分に予算配分がされており、子育てに優しく、愛があふれる町の土台づくりが、予算においても整備されつつあるのを感じた。

学校教育関係の予算に関わる事業や改修については、本当に画期的であり、これらが導入され使いこなせたら、京丹波町メソッドと連動し、素晴らしい授業づくりにとってのプラスになると感じた。しかし、懸念するのは、その機器をうまく使いこなせるかということ。過去に、初めて教室にノートパソコンが導入されたとき、当時は非常に先進的な機器の導入だったのだが、なかなか使いこなせないことがあった。うまく使いこなせるだけの指導ができる教員とそうではない教員では、子供たちにその教育機器をうまく使わせ、効果をあげるといふことに差があったと思う。今の教員はしっかり研修も受けていると思うが、情報機器には得意不得意があるため、学校において機器の有効活用に向けての研修を徹底していただきたい。他市町村では、外部から指導者を招いて研修を行ったり、指導者を一般の方から募集したりしていたと思う。昨年、学校訪問をしたとき、上手に教員の指導及び教育機器を融合させて効果的に指導している教室と、まったくノータッチの教室、また一方では機器に頼りすぎている教室があった。機器に頼りすぎて、従来の「対話の良さ」がないまま、教育機器だけを見せて終わっている。どの教室でも、どの子も、どの先生も、うまく機器を有効活用できるようにするのが大切である。

【委員】

町づくりの基本方針のひとつめに「人材」というキーワードがあった。人作りは、どの場面においても大切にしなければならないと思う。「人材育成」というのは、教師、子供、親及び社会が育たないといけない。それを育てていくためには、「ガイダンス」と「コーチング」という機能を持たなければならない。そしてそういったフォローが出来ていないといけない。具体的には、入学前の保護者説明会である。説明会では、学用品の説明や校長及びPTAの先輩からの話があり、保護者が学校に対する期待を膨らませたり、悩みや不安を解消するようなひと時となっている。説明会が終わって、その後、保護者ひとりひとりが持っている課題に対して、しっかりとコーチングできているかというとなかなか出来ていない。家庭訪問はあるが、それだけではなく子供のカウンセリングの機会をつくってみてはどうかと思う。そういうことがアクティブラーニング。行政面からも含めて町単位で、どういうことがアクティブラーニングになるのかということ具体的に協議する必要があると感じる。親の価値観も多様化しているし、教育も子育ても充分ではないなかで、親の心配や課題をサポートすることが、京丹波町ならではのぬくもりと愛のある教育指導ではないかと思う。教師からいえば、昔はきちっと板書を書くところから勉強して、先生の文字自体を見て子供は先生らしさを感じて育ってきたと思う。今は、学校便りや通知表にもすべてパソコンを使っている。それで本当に人と人との人間関係が深まるかと思うと、そうではないと思う。現代の科学と技術が持っている負の部分を抑えて、今までの良いぬくもりのある教育環境も大切にすることが必要。たくさんのお金をつかって、学校の教育環境が充実するのだが、何か足りない部分はないか、そこで心は育つのかということをもっと危惧する必要があると思う。ある中学校において、各教科の教員が作成したガイダンス（勉強内容等記載）を綴じた冊子が、新一年生に対して配られており、非常にいい発想だと感じた。子供でいえば学びのハンドブック、保護者でいえば子育てハンドブックの町版や学校版を作成し、一年間おつていくような教育が出来たらよいと思う。

【委員】

ふるさと学習にちなんで、下山小学校の教員が、下山について地域の方に話を聞いたり、訪れたい場所を調べられていた。ふるさと学習に向けて、地域との関わりを持って取り組んでおられると感じた。蒲生野中学校を訪れた時は、今後、大学受験の方法が変わるということで、それに向けて中学3年までに英検3級を取れるようにするなど、これからの教育の変化や学校の方針を保護者に説明されていて、保護者の方は真剣に耳を傾けておられた。

【委員】

学校や家庭において情報機器を扱っていくなかで、人権や命に関わる部分についても考慮の範疇にいれる必要があると思う。

【委員】

これからの教育は、コンピューターが入ってきたり、ロボットが入ってきたり、小中連携であったり、学校間連携であったり、今までの教育のかたちとはどんどん変化していく。子供

たちは、必ずタブレットに興味を持つと思うが、それが子供たちの知識や興味を超えるものでないと飽きてしまう。おもしろ味のあるものにするには、教師も機器についてよく知っていないといけないと思う。保護者の方々にも、これから1年間で色々なチャレンジをすることを知っていただき、家庭学習でも活かしていただいて、それが相乗効果を生み、素晴らしい教育ができればと感じた。

【教育長】

社会の変化を受けて、教育も大きな変化をしている。社会の変化を先取りせざるを得ないが、対応すべき学校の教職員はどちらかというと前の世代であるため、時代に即した教育、それが意味することが何であるかをよく理解する必要がある。様々な整備された諸条件を負の部分を含めて理解したうえで、使いこなさなければならない。このあたりは、特に教育委員会、教育振興室、指導主事の役割になるので、この一年でご指摘いただいたことを今後活かしていきたい。

【町長】

危機管理は、出来ていなければならない。ひとつの危機管理の基準として気象警報があり、それも確かに大事だと思う。しかし、警報は出てないが、雪が多く危険なため、休校等の判断をされたこともあり、非常に良いことだと思う。どんなときでも安全を優先すべきだ。最新の情報機器については、技術面が関係してくるため、予算を組んで、外部の専門家を入れて学んだほうが良いと思う。

校園長会議に向けて言いたい事は、生徒に学ばせるという教育、それはそのとおりで、その中で先生も学び、保護者も学び、社会も学び、という言葉が出てきて意を強くしたのだが、私が会議に出席して、教員側が挨拶されるときに、「生徒に教える」という言葉はたくさん聞くが、「自ら学ぶ」という言葉はなかなかでてこない。やはり自分が学ばないと、人に教えられないと思う。人間が分厚くないと伝わらない。小さい頃は、遊びに行った家が自分を受け入れてくれているかどうかすぐに分かった。そう考えると子供たちには、この先生が良い先生かどうかすぐに分かる。そういう意味でいうと、まずは人格を磨いてほしい。教える側の教員が自ら常に学ぶ姿勢をみんなの前で示してほしい。

最近の保育所を見ていると本来閉まってないといけない扉が開いていることがある。平成25年のものすごく冷えた年に、凍てて扉が急に開かないため、そのままにしているのはすぐに分かった。しかし、それは危機管理とはまったく反対のことをやっている。それなら、そういうときに校長や園長が自ら早く出勤して扉を開ける。それが町民目線ということだ。

【教育長】

危機管理について、今年1月の大雪の時は、土・日曜日に警報が出ていた。その時点で、各校長と教育委員会は、明日の対応について連絡を取り合っていた。校長同士が連絡しあい、当日の朝6時に現場を見に行った上で、危険だと判断したため休校の対応をした。警報の有無に関わらず、子供の安全が確保されないのであれば、休校等について個別的に判断をしたらいいと思う。校長同士が連携をして対応していたため、スムーズに休校等の放送をするこ

とが出来た。今までは、警報の場合のみ休校だったため、保護者のなかにはびっくりされた方もいたが、私はそれでいいと思う。

【町長】

そういう危機管理意識を望んでいる。

【教育長】

そういうことも踏まえて、今年度の警報等の発令による休校措置のなかに、警報が出ていないという欄を新たに設置して、学校と教育委員会が連携した上で、必要があれば休校にする。危ないと思ったときは、躊躇せずに安全第一でいきたい。各校園長もそういう意識を持っている。

【委員】

警報の休校に関しては、すごく良い判断であった。今回の雪で、京丹波町の積雪量は、地域によって大きく異なると感じた。私たちにも一報いただければ積雪情報を伝えられると思う。

話は変わるが、京丹波町学力向上メソッドが定着しつつある。京丹波町メソッドを取り入れて授業をしている中学校の教員は、板書のまとめ方が非常にきれいである。板書を見ると、今日子供たちが何を学んだのか、自分が何を指導したいと思っていたのかがよく分かる。板書は、教員の教えたいことや子供たちの意見を書き込む。教育機器だけでなく、板書と機器と両方大事にしてほしい。

【町長】

いい話を聞かせていただいた。本当にそのとおりでと思う。

【教育長】

小・中学校の授業改善において、これまでは、教育委員会で作成したメソッドを現場におろすというスタイルをとっていたが、去年の夏からメソッド作成を現場に委ね、国の動向や京丹波町の子供の実態から、どのような授業改善が必要なのか検討するよう提案した。現場と指導主事が一緒になって、現場提案型の新たなメソッドを作成した。京丹波町の授業改善は本物になるとの期待感を抱いている。中学校においても「めあてと振り返り」を意識した授業を行っている。何を目的にするのか、それをどう具現化するのかということが中学校でも出来るようになってきた。

【委員】

教育業界は横文字が多い。一般人に向けて広報するときには、横文字を分かりやすく浸透するようにするのが良いと思う。

【委員】

一番気になっているのは、いじめの問題がなかなか解決に至らないということ。私が日本人の感覚として納得いかなかったのは、東日本大震災で家を離れざるを得ない子供が、転校先でいじめを受けないようにするために、出身地を伏せなければならないということ。こんなに悲しいことがまだ日本で起こっているということは、日本の道徳教育はまだ熟していない

い。大変恥ずかしいことだと思う。そういう意味で言うと、京丹波町の教育推進プランにある「いじめをなくす京丹波こども宣言」を活かすためにはどうするのか考えなければならぬ。中途半端は子供たちを変えることには至らないので、本当にやるなら、ここまでやっているのだということが示せないとおもえる。いじめの問題は色々な面で教育の根源にあると思うので、そのことをもっと深められる教育裁量が大切だと思う。そのためには、教師自身の子供の目を見る力や表情を毎日捉える力など、自分がどう捉えられているかというアンテナを張れているかということが、教師の指導技術の根幹にあると思う。京丹波町において、子供たちが尊重し合い、学び合うという風土が、今どのあたりまで来ているのか、何を変えなければそこに至らないかということ、教育委員会としても整理していかなければならない。

【委員】

須知高校において、大雪の時に、町バスは運休していたが、警報が出ていなかったため、和知地区と下山区では高校への送迎が大変だったという話を聞いた。

路肩に色の付いた「安全の道」が出来たおかげで、通学路がどこなのか分かりやすくなり、子供たちが良い環境で登下校できていてありがたいという話を地域の方から聞いた。ある地域にはサルがたくさんおり、危険なのでどうにかならないかという話も聞く。

クラブの在り方については考える必要があると思う。日曜日にクラブ活動がある場合、町営バスが走らないため保護者が送迎することになるが、子供は学校にスマホを持ち込めないため、送迎に関して保護者と中学校の連携が難しい。

いじめについて、収束したように見えても、表立っては出てこない根の深い部分があり、中学進学の際、地元ではなく他の地域へ進学させるということが現にある。スマホなど便利になればなるほど、目に見えないものが潜んでいるので、注意していきながら地域、学校、家庭が連携していく必要がある。

【委員】

訪問した中学校で生徒の靴がきれいに揃っていた。細かいところまで指導していただいているのはありがたい。そういうところが学校の雰囲気に関係してくる。エアコンが導入された件について、学校を訪問した時、教室よりも廊下のほうが涼しかったことがある。エアコンの設定温度は28℃と決まっているようだがどうにかならないのか。

【教育長】

設定温度の規定はあるが、同じ温度でも湿度等によって変化するため、設定温度については校園長に一定の裁量権がある。教職員の働き方改革の問題については、今年度、文科省が部活指導員を設置するというので、京都府を通じて蒲生野中学校に1名配置されることになった。クラブの休養日については、以前、日曜日は基本的にクラブ活動をしないとなっていたのが、今はあやふやになっている。家庭と子供との関わりや教師の健康面を考えると、日曜日については部活動を休養するべきであると思う。

○閉会

櫻井職務代理者挨拶

〈閉会：午前11時36分〉